

従来の研修に替わる 「WEB研修」の可能性

飯塚 健二 株式会社新経営サービス 人事戦略研究所 マネージャー

住所：京都市下京区河原町五条西入本覚寺前町830 京都EHビル6階 Tel：075-343-0770 <https://www.skg.co.jp>

新型コロナによる影響が、想像を超える形で、随所に生じています。人材マネジメントにおいても、採用・研修を中心に、これまで対面（説明会や面接、Face To Faceによるワークショップやトレーニング等々）で行ってきたことができず、その代替手段を否が応でも考えざるをえない状況に追い込まれているのではないのでしょうか。

今回は、対面式の研修（リアル研修）に替わる手段として、WEB研修（WEBを通じて行う研修）について取り上げたいと思います。ただし、リアル研修とWEB研修の違いは、最近よく見聞きするようになったので、ここでは、WEB研修の中でも、録画研修（研修を録画撮影して受講者に配信・視聴する形式）と、ライブ研修（ビデオ会議システムを用いてリアルタイムに研修を実施する形式）の違いに焦点を当て、(1) 場所・時間的制約、(2) 研修内容・手法の観点から整理してみたいと思います。

(1) 場所・時間的制約

まず、場所的制約については、ハードウェアや通信環境を整備することができれば、どこでも受講可能となります。この点では、録画研修もライブ研修も、リアル研修にはないメリットです。

一方、時間的制約については、録画研修の場合、受講者の都合のよい時間帯・タイミングでの受講が可能であるのに対し、ライブ研修はリアル研修と変わらず、指定された時間を拘束されることとなります。時間的な利便性という観点では、録画研修のほうがライブ研修よりもメリットがあるといえます。

(2) 研修内容・手法

研修内容・手法については、録画研修の場合、一方的な説明とならざるをえず、インタラクティブなコミュニケーションができないという点がデメリットです。その反面、受講者のペースで録画を止めたり、繰り返して視聴したりできる点がメリットです。そういう意味では、録画研修は、知識をインプット

WEB研修の分類

	録画研修	ライブ研修
場所	どこでも可	どこでも可
時間	いつでも可	指定された時間
手法	一方通行 受講者のペースで受講可	双方向（チャット、投票、グループ討議(*)等)
内容	インプット系	リアル研修に近い

(*) Zoom (2020.5.15時点) のブレイクアウトセッション等

する類の研修内容にふさわしいといえます。

一方で、ライブ研修は、ビデオ会議システムをうまく活用すれば、インタラクティブなコミュニケーションが可能となり、基本的にはリアル研修に近いくことができるようになります。例えば、どのシステム（Zoom等）を使うかにもよりますが、①チャット機能を使って受講者からの質問をしやすくする、②投票機能を使ってその場で受講者の反応（アンケートや選択肢のある問題への回答等）を即座に共有することができる、③ブレイクアウトセッション機能を使って、少人数に分かれてのディスカッション等ができるなどが挙げられます。特に、①②についてはリアル研修にはないメリットがあります。工夫次第で、多様な活用方法が考えられますし、むしろこれまでのリアル研修ではできなかったことが実現できる可能性も秘めています。そういう意味で、ライブ研修は、リアル研修に近い形で、インプット中心の研修に限らず、幅広く実施できる可能性があると思います。

ただし、どちらも、1回当たりの研修時間は、集中力を考えると、1時間から2時間位までが限度でしょう。そこで、研修効果をより高めていくための工夫としては、研修⇒実践⇒研修⇒…のように、短時間のWEB研修と実践とを交互に繰り返しながら進めていくプログラムがより効果的です。

こういうときだからこそ、知恵を絞って、ITの力をうまく活用していくことが求められているのではないのでしょうか。